宇宙学セミナー
2014.6.26

『対話型パブリックコメント』という市民参画手法の紹介 ～宇宙基本計画（案）へのパブリックコメントを例に～

Title: Introduction to a Public Engagement Method, "Interactive Public Comment system" on the Draft of “Basic Plan on Space Policy”

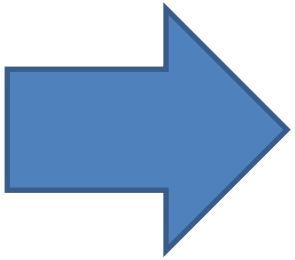
滋賀大学教育学部理科教育講座　准教授

（兼）京都大学物質ー細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）
科学コミュニケーショングループ　特任准教授

（兼）JST社会技術研究開発センター

加納圭 (Kei KANO)

バックグラウンド

つたえる  きく

科学コミュニケーションの歴史

専門家が、

科学を	社会を	社会と
伝える	＋ **学ぶ**	＋ **協働**
1993年	**2001年**	**2011年**
理科離れ	科学と社会の コミュニケーション	社会とともに創り 進める政策の展開
（科学技術白書）	（第２期科学技術基本計画）	（第４期科学技術基本計画）

今日の話のポイント（３つ）

１.「宇宙基本計画」知ってる？誰がいつどうしてどうやってつくってる？
Do you know the “Basic Plan on Space Policy?”
Why, when, who, how make the policy?

２. 政策に幅広い国民の意見を取り入れるってどういうこと？どうやる？
What means “incorporating broad public opinions into policy-making?”
How do we do that?

３. 取り入れたら何かいいことある？
So what brings us?

新たな宇宙基本計画（案）について

平成２４年１２月
内閣府宇宙戦略室

今日の話のポイント（３つ）

１.「宇宙基本計画」知ってる？誰がいつどうしてどうやってつくってる？
Do you know the “Basic Plan on Space Policy?”
Why, when, who, how make the policy?

２. 政策に幅広い国民の意見を取り入れるってどういうこと？どうやる？
What means “incorporating broad public opinions into policy-making?”
How do we do that?

３. 取り入れたら何かいいことある？
So what brings us?

科学コミュニケーションの歴史

専門家が、

科学を	社会を	社会と
伝える	＋ **学ぶ**	＋ **協働**
1993年	**2001年**	**2011年**
理科離れ	科学と社会の コミュニケーション	社会とともに創り 進める政策の展開
（科学技術白書）	（第２期科学技術基本計画）	（第４期科学技術基本計画）

第４期科学技術基本計画(H23年度～５年間)

Ⅴ．社会とともに創り進める政策の展開

２．社会と科学技術イノベーションとの関係深化

（１）国民の視点に基づく科学技術イノベーション政策の推進

① 政策の企画立案及び推進への国民参画の促進

＜推進方策＞（の1つ）

- 国は、政策、施策、さらには大規模研究開発プロジェクトの企画立案及び推進に際し、国民の幅広い意見を取り入れるための取組を進める。また、国は、大学や公的研究機関が、同様の取組を積極的に進めていくことを期待する。

論文

サイエンスカフェ参加者のセグメンテーションとターゲティング
～「科学・技術への関与」という観点から～

加納 圭[*1,2,3]，水町 衣里[*2]，岩崎 琢哉[4]，磯部 洋明[5,6]，川人 よし恵[4]，前波 晴彦[7]

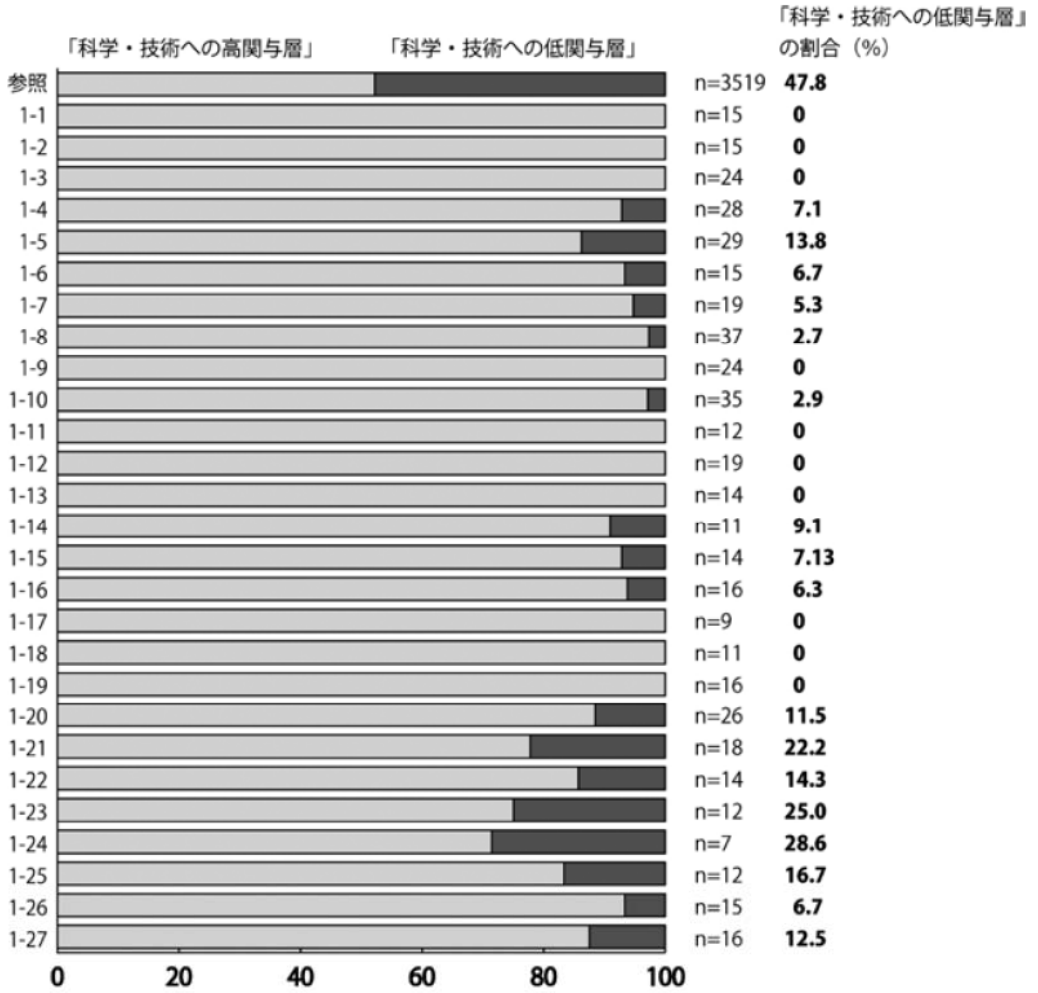
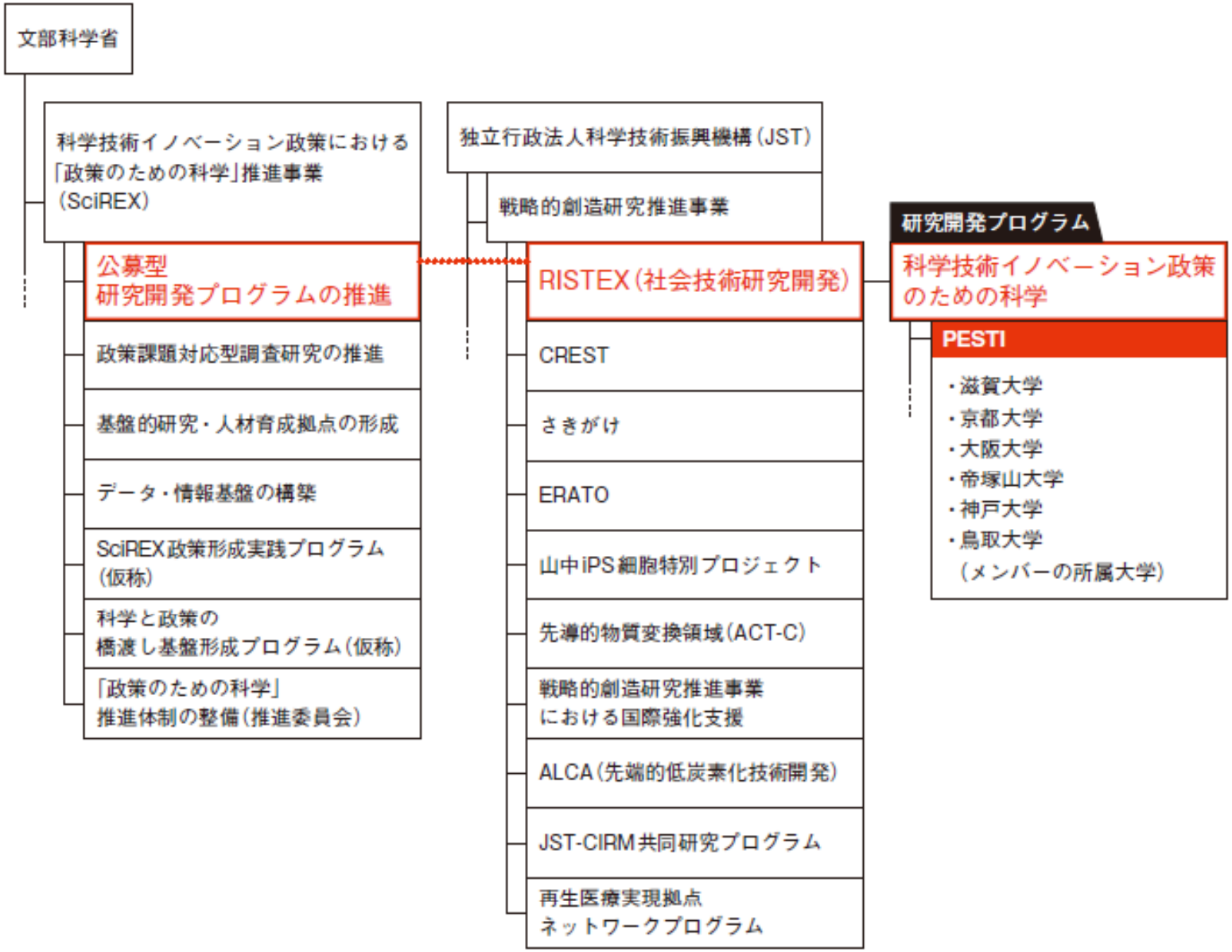


図2　サイエンスカフェなど少人数対話型イベントの参加者層

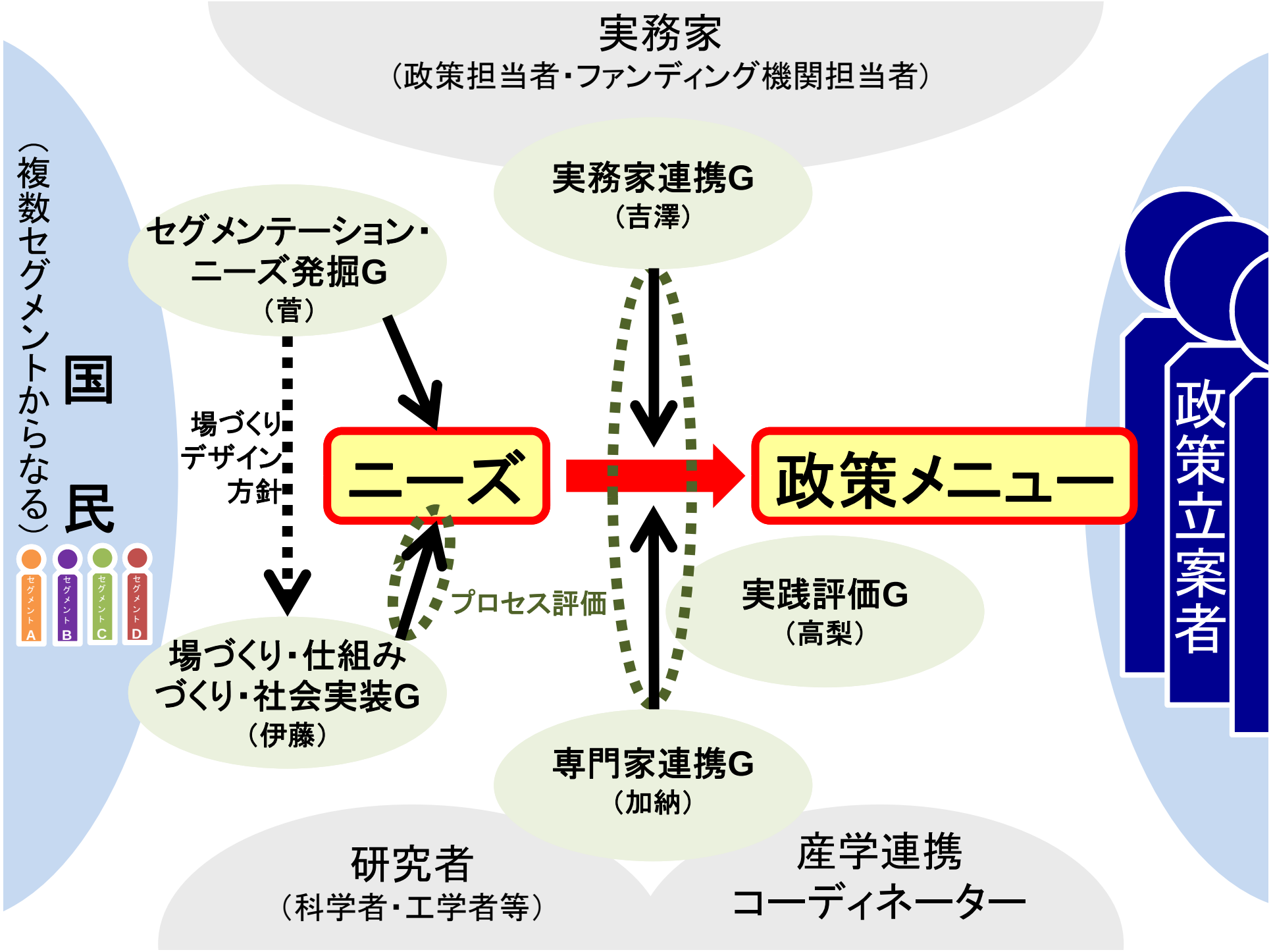
STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計

Framework for Broad Public Engagement in Science, Technology and Innovation Policy

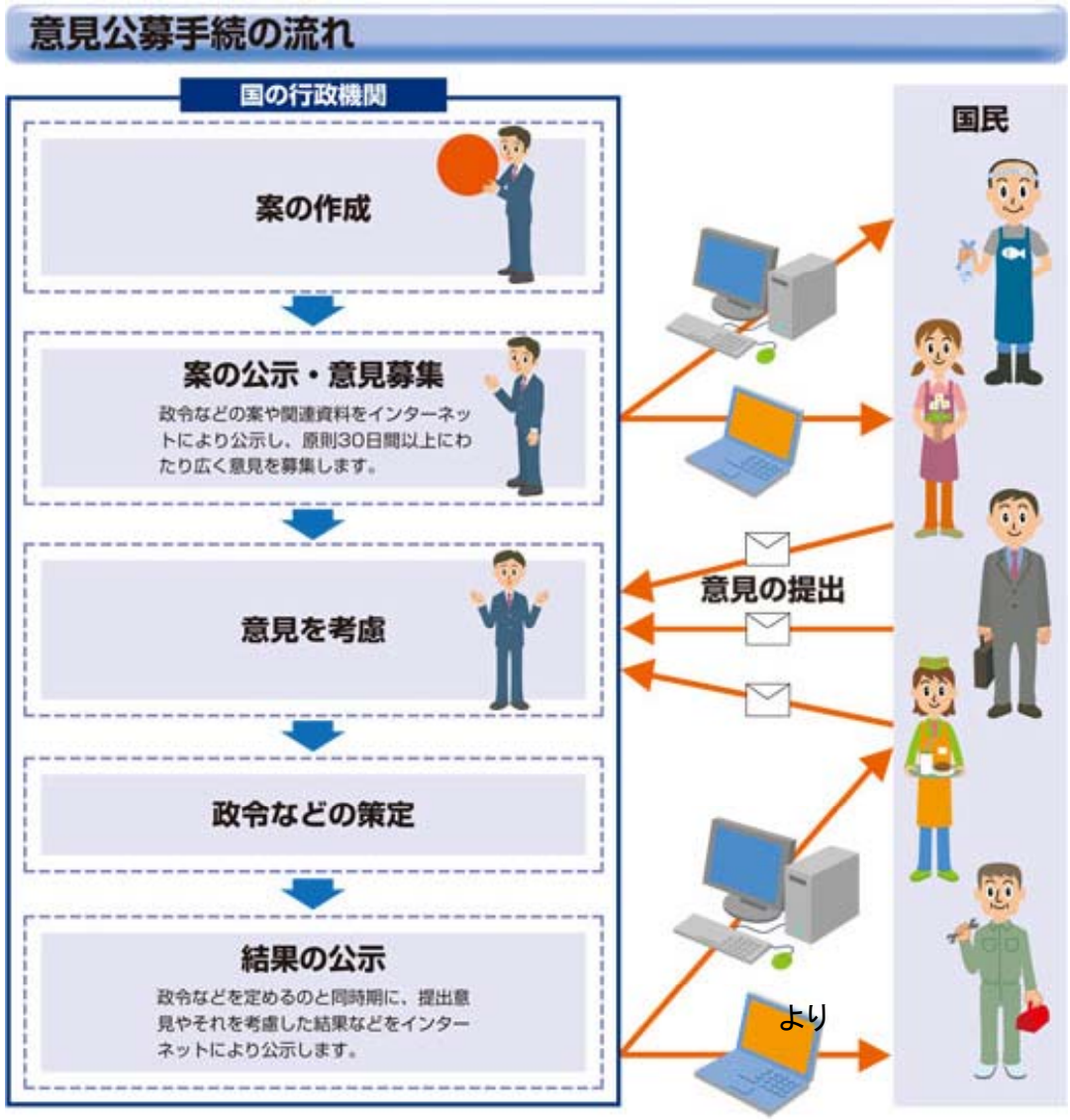

文部科学省
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX）
公募型研究開発プログラムの推進
政策課題対応型調査研究の推進
基盤的研究・人材育成拠点の形成
データ・情報基盤の構築
SciREX政策形成実践プログラム（仮称）
科学と政策の橋渡し基盤形成プログラム（仮称）
「政策のための科学」推進体制の整備（推進委員会）
独立行政法人科学技術振興機構（JST）
戦略的創造研究推進事業
RISTEX（社会技術研究開発）
CREST
さきがけ
ERATO
山中iPS細胞特別プロジェクト
先導的物質変換領域（ACT-C）
戦略的創造研究推進事業における国際強化支援
ALCA（先端的低炭素化技術開発）
JST-CIRM共同研究プログラム
再生医療実現拠点ネットワークプログラム
研究開発プログラム
科学技術イノベーション政策のための科学
PESTI
・滋賀大学
・京都大学
・大阪大学
・帝塚山大学
・神戸大学
・鳥取大学
（メンバーの所属大学）

No	氏名	専門	所属
1	☆ 加納圭（代表）	科学コミュニケーション	滋賀大学教育学部・講師/京大iCeMS・特任講師
2	秋谷直矩	エスノメソドロジー	京都大学iCeMS科学コミュニケーションG・研究員
3	伊藤真之	科学教育、宇宙物理学	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授
4	蛯名邦禎	環境物理学、科学教育	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授
5	☆ 工藤充（PJマネージャ）	科学コミュニケーション	京都大学iCeMS科学コミュニケーションG・研究員
6	後藤 崇志	認知心理学	京都大学教育学研究科・博士課程／JSPS
7	菅万希子	医療マーケティング	帝塚山大学経営学部・准教授
8	高梨克也	コミュニケーション科学	京都大学学術情報メディアセンター 研究員
9	丁瀟君	経営学	京都大学経営管理大学院・特定助教
10	中山晶絵	科学教育	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教育研究補佐員
11	日置弘一郎	経営学	京都大学院経済学研究科・教授
12	☆ 前波晴彦	産学官連携	鳥取大学産学・地域連携推進機構・講師
13	水町衣里	科学コミュニケーション	京都大学iCeMS科学コミュニケーションG・研究員
14	源利文	生態学、科学教育	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・助教
15	元木環	情報デザイン	京都大学情報環境機構・助教
16	森幹彦	知能情報学	京都大学学術情報メディアセンター・助教
17	森村吉貴	情報学	京都大学iCeMS・助教
18	吉澤剛	科学技術政策	大阪大学大学院医学系研究科・准教授

☆：本合宿参加者


実務家
（政策担当者・ファンディング機関担当者）
実務家連携G
（吉澤）
セグメンテーション・
ニーズ発掘G
（菅）
場づくり
デザイン
方針
ニーズ
政策メニュー
政策立案者
国民
（複数セグメントからなる）
セグメントA
セグメントB
セグメントC
セグメントD
プロセス評価
実践評価G
（高梨）
場づくり・仕組み
づくり・社会実装G
（伊藤）
専門家連携G
（加納）
研究者
（科学者・工学者等）
産学連携
コーディネーター

「パブリック・コメント手続（PC手続）」



より

e-Gov [イーガブ] 電子政府の総合窓口 イーガブ

パブコメの課題

・内閣府 国民生活局が行った「平成19年度国民生活選好度調査」（2008）によると，パブコメを知らない人が87.7%にものぼる
・パブコメ1件あたりに提出された意見数が少ない（全案件の中で，意見提出数0と1～10の案件をあわせた割合は80%程度で推移している）
・提出された意見が反映された案件の割合が少ない（反映された案件は20%～30%で推移している）
・消費者・生活者からの**苦情を国民からの「贈り物」**と積極的に捉えていくことが必要

対話型パブコメへの参加方法

私たちの行う対話型パブコメには、三つの方式があります。

【方法 1】
対話式

PESTI& パブコメ普及協会が実施するワークショップに参加し、パブコメを書く。所要時間は 1 時間から。

【方法 2】
訪問
アンケート式

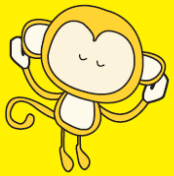
PESTI& パブコメ普及協会がみなさんの集まっているところにお伺いするので、そこでアンケート式のパブコメを書く。所要時間は 15 分から。

【方法 3】
インターネット
回答式

PESTI& パブコメ普及協会の特設ウェブサイトを訪問し、質問フォームに答えてパブコメを書く。所要時間は 10 分から。

連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田牛ノ宮町
京都大学物質ー細胞統合システム拠点 (iCeMS)
科学コミュニケーショングループ
対話型パブリックコメント担当
Email: taiwa@pesti.jp
対話型パブリックコメント



パブコメ普及協会 × PESTI

対話型パブコメのススメ

知ろう
語ろう
届けよう

話すモンキー

聞くモンキー

見るモンキー

© 対話モンキーズ

パブコメ普及協会 × PESTI

市民のみなさんの声を政策に届けませんか？

パブリックコメントってご存知ですか？国や自治体が政策をつくっていく上で、広く市民のみなさんから意見や情報を募集する仕組みのことです。1人で未来を考えるのが大変だったら、みんなで考えてみましょう。みんなで話したら、思いもよらないアイディアにたどり着くかもしれません。私たちが、みなさんの声を政策に届けるお手伝いをします。
みなさんのご参加、お待ちしております。

対話型パブリックコメントって？

対話型パブリックコメント（略して対話型パブコメ）は、従来のパブリックコメントを発展させた、新しいパブリックコメントの仕組みです。私たちの行う対話型パブコメには、三つの方式（対話式、対面アンケート式、インターネット回答式）があります。それぞれの特徴については、裏表紙をご覧下さい。

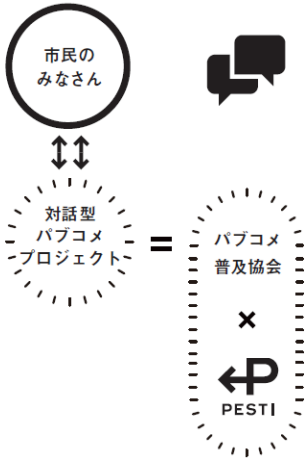
特長

- 様々な場におもむき、多様な市民のみなさんの声を積極的に聞きに行きます。
- パブリックコメントの背景（意見の収集・集約プロセスや意見が出された文脈・背景、さらに対象地域の特性）も、コメントと一緒に提出します。
- コメントがどのように政策形成に反映されたかを情報公開するだけでなく、希望する意見提出者や社会にフィードバックします。

意見が政策に届くまでの流れ

（1） 各府省庁・自治体によって、政策案が決まる

（2） 対話型パブコメの実施



「私たちの声で政策が良くなるといいな。」
「政策に自分の声を届けたい。」
「どうすれば私たちの声を政策に届けられるの?」

パブコメ普及協会とは？

パブリックコメントをより広く行政活動に活用してもらうための取り組みを行っている、若手市民グループです。

PESTI(= ペスティ) とは？

市民の意見を政策形成につなげるための仕組みの開発を目指している大学研究者の集まりです。

（3） 集まったコメントの集計・まとめ

（4） 各府省庁・自治体に対話型パブコメの結果をお届け

みなさんの意見を政策に届けます

PESTI& パブコメ普及協会は「対話型パブコメ」の仕組みを使って、より多様な市民のみなさんの声を政策につなげることを目指して活動を行っています。

表1: 宇宙基本計画（案）に関するパブコメの流れと実施したワークショップ

日付	宇宙基本計画(案) に関するパブコメの流れ*1	筆者らが実施したワークショップ
2012年11月20日	宇宙政策委員会 第9回会合において，宇宙基本計画の素案が提出された(注 :11/26に議事次第公開)	
2012年12月3日		ワークショップの企画を開始
2012年12月5日	パブコメの募集：開始日	
2012年12月12日		事例2の告知開始
2012年12月15日		事例1の告知開始
2012年12月19日		事例1「パブコメワークショップ：これからの宇宙の『使い方』 を考える」を実施 事例3の告知開始
2012年12月20日		事例2「Noti' s討論会 ～宇宙基本計画案についてどう思う?～」を実施
2012年12月21日		
2012年12月22日		事例3「サイエンスカフェ神戸(No.86) これからの宇宙の『使い方』を考える」を実施
2012年12月25日	パブコメの募集：最終日	
2013年1月15日	宇宙政策委員会 第10回会合の資料の1つとして「『宇宙基本計画(案)』に関する意見募集の結果について」が公開された	
2013年1月24日		
2013年1月25日	政府の宇宙開発戦略本部により，宇宙基本計画が正式決定	
2013年1月30日		事例1の参加者に呼びかけ「パブコメの結果をみんなで見る会」を実施
2013年2月21日		事例2の参加者に呼びかけ「パブコメの結果をみんなで見る会」を実施

*1: 内閣府HP内のページ「宇宙政策委員会　開催状況」で公開されている資料などを元に記述した.

表2: パブコメワークショップの事例リスト

	WS名	実施日時	会場	参加者数	主催、共催団体名	話題提供者の位置付け：宇宙関連分野の専門家	話題提供者の位置付け：宇宙政策の専門家	パブコメ結果をみんなで見る会
事例1	パブコメワークショップ：これからの宇宙の「使い方」を考える	2012年12月19日 18:30～21:00	京都大学 吉田泉殿	14人	主催：PESTI[*1]	×	×	実施 (2013年1月30日)
事例2	Noti' s討論会 ～宇宙基本計画案についてどう思う？～	2012年12月20日 18:30～20:45	キャンパスプラザ京都 2階ホール	27人	主催：学生宇宙団体Noti s 共催：PESTI[*1]	○	○	実施 (2013年2月21日)
事例3	サイエンスカフェ神戸(No.86) これからの宇宙の「使い方」を考える	2012年12月22日 13:30～16:00	神戸大学発達科学部 Dルーム	15人	主催：神戸大学サイエンスショップ、PESTI[*1]	○	×	未実施

*1:PESTI(＝ペスティ) は，JST･RISTEX科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム「STIに向けた政策形成プロセスへの関心層別関与フレーム設計(代表：加納圭)」の略称.

表3: パブコメワークショップの流れと実施内容

パブコメワークショップの流れ	実施内容
パブコメワークショップ当日	1) 情報提供 2) 意見交換
↓	
パブコメワークショップ直後	3) 意見提出
↓	
パブコメ結果公開後	4) 結果を共有

表5: パブコメワークショップの参加者層

	WS名	参加者数	アンケート対象者数	回収率	科学・技術への関与度 高関与層：低関与層
事例１	パブコメワークショップ：これからの宇宙の「使い方」を考える	14人	10人	90.0%	9人:0人
事例２	Noti’s討論会 ～宇宙基本計画案についてどう思う？～	27人	22人	22.7%	5人:0人
事例３	サイエンスカフェ神戸(No.86) これからの宇宙の「使い方」を考える	15人	11人	90.9%	10人:0人

PESTI自己紹介

みなさんの意見／思いを、
政策を考える／実行する人まで
お届けしたい

そのための仕組みづくりを考えています

今日のテーマ

宇宙基本計画（案）

- 今後5年間の日本が実行していく
  宇宙政策の方針が書かれている

- 12/5から12/25まで、
  パブリックコメントが募集されている

- みんなでパブコメに出す意見を
  考えてみよう！

はじめに

このワークショップの方針

- PESTI事務局で意見を集約してパブコメに送ります
- パブコメ実施者から（今回は、内閣府）パブコメに対するレスポンスが発表されたら、すぐにお知らせします
- 「みんなでレスポンスを眺めてみる会」も開催できたらいいな。

では、まず

宇宙に想いをはせてみる

今日、朝起きてから今までに、

「宇宙開発」の恩恵を何回受けた？

次に・・・

宇宙基本計画（案）について
ちょっとだけ詳しくなる

15分ぐらいで簡単に計画案のご紹介？
・どこが気になる？
・どこ一番話してみたい？

さて！

もと、とれてる？

日本が宇宙開発に投じている年間予算、
国民１人当たりに換算すると、3500円ぐらい

さらに！

もっともっと、
もと、とれる？

私たちが払っていることになっている3500円。
仮に、7000円分のもとをとろうと思ったら、
どうしたらいい？

今日の話のポイント（３つ）

１.「宇宙基本計画」知ってる？誰がいつどうしてどうやってつくってる？
Do you know the “Basic Plan on Space Policy?”
Why, when, who, how make the policy?

２. 政策に幅広い国民の意見を取り入れるってどういうこと？どうやる？
What means “incorporating broad public opinions into policy-making?”
How do we do that?

３. 取り入れたら何かいいことある？
So what brings us?

		ワークショップでの議論を元に提出した意見の概要	提出した意見に対応すると考えられるカテゴリー*1	カテゴリーに対する回答*2
事例1	意見1	今後進められる宇宙開発の広報活動に，より積極的に取り組んでいただきたいです.	(18) 国の政策の広報やフォローアップの公開を行うべき，一般の人々の興味を引き出すべき，国民の理解が必要など広報・普及啓発に関する意見	普及啓発については，第3章3-3. (1)「宇宙利用の拡大のための総合的施策の推進」において，幅広い分野の産業界や地方自治体を含めた関係行政機関に，宇宙開発利用の利便性やベストプラクティスに係る啓発活動として，シンポジウムやセミナー等を通じた理解・普及を行うことが必要であり，さらに宇宙開発利用の優れた取組や功績に対する顕彰制度を整備することとしています. 計画や施策のフォローアップについては，第4章 (2)「施策の進捗状況のフォローアップと公表」において，宇宙基本計画に基づく個別施策の進捗状況について，フォローアップを行い，適宜公表することとしています. また，平成24年9月から宇宙政策セミナーを随時開催しており，今後も宇宙政策の広報に積極的に努めていきます.
	意見2	宇宙太陽光発電の実現に向かって具体的な検討を行なう前には，安全性やリスクをきちんと見積もる努力をする必要があると思います. 例えば，そのために，リスクコミュニケーションやテクノロジーアセスメントに関する取組を始めていただけないでしょうか.	(9-2) 宇宙太陽光発電は技術的，経済的に現実的ではない	第3章3-2. G「宇宙太陽光発電研究開発プログラム」において，無線による送受電技術等を中心に研究を着実に進め，宇宙空間での実証に関しては，その費用対効果も含めて実施に向けて検討することとしています.
	意見3	安全保障の予算を増額するために，基礎科学の予算を削減することは避けていただきたいと思います. 安全保障の予算を増額するのであれば，宇宙開発関連予算全体の増額等を検討していただけないでしょうか.	(17) 財政的に宇宙予算を拡大する努力が必要	第2章2-3.「施策の重点化の考え方と3つの重点課題」において，我が国の厳しい財政状況を踏まえ，限られた資源で最大限の成果を挙げるためには事業の優先順位を付けて実施することが必要不可欠であり，「安全保障・防災」，「産業振興」，「宇宙科学等のフロンティア」の3つの重点課題を定めています.
	意見4	基礎科学の推進も重要だと思われます.	(2-1)「はやぶさ2」をはじめとする宇宙科学・探査を全般的に推進すべき(有人宇宙探査を除く) or (77) 計画には，利用を目的とする項目，それ以外の未来への研究開発投資項目とすべき	(2-1)宇宙科学等のフロンティアを，重点課題の一つとしており，3章3-2. E「宇宙科学・宇宙探査プログラム」において，学術としての宇宙科学・宇宙探査は，今後も一定規模の資金を確保し，世界最先端の成果を目指すこととしています. or (77) 本計画(案) においては，基本方針としては，「宇宙の利用の拡大」と「自律性の確保」を挙げるとともに，事業の重点化に関しては，第2章2-3.「施策の重点化の考え方と3つの重点課題」において，我が国の厳しい財政状況を踏まえ，限られた資源で最大限の成果を挙げるためには事業の優先順位を付けて実施することが必要不可欠であり，「安全保障・防災」，「産業振興」，「宇宙科学等のフロンティア」の3つの重点課題を定め，具体的な施策として，4つの社会インフラと将来の宇宙開発利用の可能性を追求する3つのプログラムを定めています.
	意見5	現行の宇宙基本計画に含まれている「国民参加」に関わる内容の継続をお願いいたします.	(18) 国の政策の広報やフォローアップの公開を行うべき，一般の人々の興味を引き出すべき，国民の理解が必要など広報・普及啓発に関する意見	普及啓発については，第3章3-3. (1)「宇宙利用の拡大のための総合的施策の推進」において，幅広い分野の産業界や地方自治体を含めた関係行政機関に，宇宙開発利用の利便性やベストプラクティスに係る啓発活動として，シンポジウムやセミナー等を通じた理解・普及を行うことが必要であり，さらに宇宙開発利用の優れた取組や功績に対する顕彰制度を整備することとしています. 計画や施策のフォローアップについては，第4章 (2)「施策の進捗状況のフォローアップと公表」において，宇宙基本計画に基づく個別施策の進捗状況について，フォローアップを行い，適宜公表することとしています. また，平成24年9月から宇宙政策セミナーを随時開催しており，今後も宇宙政策の広報に積極的に努めていきます.
	意見6	宇宙開発の過程で，日本の得意分野である“ものづくり”を活かした地域振興を実現してください.	(103) 宇宙開発の過程で，日本の得意分野である町工場や職人等に代表される“ものづくり”を活かした地域振興を実現すべき	第2章2-3.「施策の重点化の考え方と3つの重点課題」において，「産業振興」を重点課題の一つに位置づけています.

事例２	意見１	「宇宙基本計画」と「科学技術基本計画」との連携を踏まえた文言をいれてはどうでしょうか.	(3-4) しっかりと研究開発を行う必要があるという観点から，宇宙利用と研究開発のバランスをとるべき or (12-3) 新規の研究開発に関して，研究テーマを広く募集すべき or (13) 利用側と開発側の連携や宇宙以外の施策との連携が必要	(3-4) 第３章3-3. (2) ②a)「研究開発の推進」において，新分野の開拓などの視点が重要であり，学術目的以外の研究開発については，宇宙利用の拡大や産業化の視点から取り組むこととしています. また，宇宙科学等のフロンティアを，重点課題の一つとしており，３章3-2. E「宇宙科学・宇宙探査プログラム」において，学術としての宇宙科学・宇宙探査は，今後も一定規模の資金を確保し，世界最先端の成果を目指すこととしています. or (12-3) いただいたご意見は今後の検討の際の参考にさせていただきます．なお，第３章3-1．C (2)「課題」に記載の通り，これまでの研究開発や技術実証を踏まえ，今後の技術実証の在り方を精査する必要があると考えています. or (13) 第４章(1) ④「宇宙開発利用に関する関係府省等連絡調整会議の開催」において，内閣府は，関係府省からなる連絡調整会議等を活用して，宇宙政策全般に関する調整を行うとともに，利用者のニーズや開発者の技術シーズ等を取りまとめ，これを開発内容に反映する等，効率的・効果的な宇宙政策の企画，立案及び総合調整を行うこととしています. 第４章(3)「宇宙以外の政策との連携」において，宇宙以外の政策との連携を推進することとしています.
事例３	意見１	パブリックコメントの募集期間（21日）が短いのではないか.	(24) パブリックコメント募集期間は適切か．短いのではないか.	他の基本計画の策定における意見募集期間などを参考に３週間といたしましたが，いただいたご意見は今後の検討の際の参考にさせていただきます.
	意見２	安全保障用途（防衛）の宇宙開発利用に対して，懸念がある.	(5-1) 宇宙利用による安全保障の強化に危惧や懸念.	本計画(案)に定める施策は，宇宙の平和的利用は，宇宙基本法第２条のとおり，日本国憲法の平和主義の理念に則り行っていくものとしています.
	意見３	宇宙利用の民間需要拡大の目標を具体例とともに記述してはどうか.	(3-14)「民間需要の獲得」とは，何を指すのか	第３章3-1．C「通信・放送衛星」において，我が国の宇宙機器産業は国際競争力の強化が課題であり，特に，今後世界的に需要の拡大が見込まれる通信・放送衛星分野での競争力強化を図るため，将来の利用ニーズを見据えた要素技術の開発，実証等により，我が国の宇宙産業の国際競争力の強化を図ることとしています．また，測位衛星，リモートセンシング衛星については，利用産業の競争力強化や新サービスの創出により，民需や外需を取り込むことが可能と考えています.
	意見４	スペースデブリの問題だけでなく，小惑星や彗星など地球に衝突する可能性のある天体の監視についても計画に含めるべきではないか.	*該当する項目が見当たらず	
	意見５	初等・中等教育の宇宙教育の充実に関して，具体性をもった今後の戦略を記載するべきではないか.	(10-5) 子供たちに夢を持たせることが重要．教員の宇宙情報へのアクセスの改善，一般教室で行える教育法の開発，専門知識を持つ教員の育成，外部の専門家の協力などが必要	第３章3-3. (6) ②a)「宇宙開発利用を支える人材の育成」において，科学技術に対するリテラシーを向上させる上で，宇宙は青少年期から興味や関心を持ちやすい分野であり，学習意欲の向上にも有効と考えられることから，宇宙教育を重要な手段として科学技術に関する初等中等教育を充実することとしています．なお，いただいたご意見は今後の検討の際の参考にさせていただきます.
	意見６	一般の社会人へのアプローチも必要ではないか.	(10-4) 青少年教育・とりわけ社会・生涯教育での宇宙教育推進での県内行政機関での窓口設置や推進策の具体化について触れるべき.	ご指摘を踏まえ，第３章3-3. (6) ②a)「宇宙開発利用を支える人材の育成」において，「政府，大学，JAXA，産業界等が連携し，」を，「政府，自治体，大学，JAXA，産業界等が連携し，」と修正します.

*1:内閣府によって発表された，今回のパブコメの結果（「『宇宙基本計画(案)』に関する意見募集の結果について」）は，その内容によって複数のカテゴリーに分けて公開されていた.事例１と事例２に関しては，「パブコメの結果をみんなで見る会」の参加者とともに自分たちが提出した意見はどこのカテゴリーの中に含められたのかを推測した．事例３に関しては，主催者が意見が含まれると推測されるカテゴリーを判断した.

*2:内閣府によって発表された，「『宇宙基本計画（案）』に関する意見募集の結果について」内には，カテゴリーごとに意見への回答が提示されている．ここには，該当すると思われるカテゴリーの回答をそのまま転記した.

学びはある

「（自分たちが提出した意見が改訂案に）載ることだけを目的にするのは違う（事例2の参加者）」

「株券を1枚買えば，それだけで世の中をみるようにもなる（事例2の参加者）」

見えてきた課題と今後の展望

1. 時間的制約について
   - 政策形成の進行スピードについていくのが困難

     →政策形成過程をある程度まで予測できるようにし、必要となるエビデンスを先回りして収集しておく
2. PESTIが意見収集・集約して政策形成の場に届ける手法について
   - 政策形成のアジェンダや問題設定（フレーミング）が、必ずしも対話への参加者の関心や問題意識と合致しない

     →既定の政策に対する批判的な意見も収集して政策過程に建設的に反映させることのできる方法を実務家と共に模索する
3. トレーサビリティについて
   - 意見を出してくれた国民一人ひとりに対して、意見が政策にどのように反映されたかをフィードバックする必要がある

     →仕組みづくりグループが開発するシステムによって対応する
4. 関与者の「幅広さ」について
   - やはり「科学技術への高関与」層が中心となっている

     →積極的に出向いていく必要がある

「潜在的関心層」のニーズ
（H23年度調査より）

再生医療の
リスク回避

再生医療による
QOL向上期待

政策メニュー例

「歯の欠損」
に関する
再生医療研究の促進

- リスクが小さく「最初」の再生医療の実現化に向く（出鼻をくじかれてはいけない）。
- 罹患率が高く（30代の8割が歯周病）、多数の治療例（成功例）の蓄積が期待される。
- 成功例の蓄積により「再生医療」が納得して受け入れられやすくなることが期待される。

・・・

「臓器機能の代替」
に関する
再生医療研究の促進

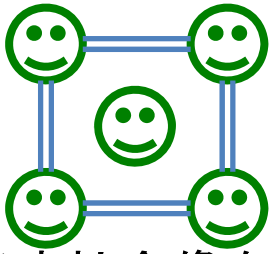
- 医療の質や患者のQOLの飛躍的な向上が期待される。
- 多くの難治性疾患・重篤疾患患者に希望を与えられる。

・・・

出鼻をくじかれれば期待が大きい分、社会の信頼を失い、再生医療分野全体に影響が及ぶ
（当時の文部科学省ライフサイエンス課長）

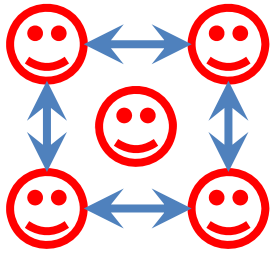
バックキャスティング

あるべき社会像の検討を重視したパブリックエンゲージメントの取組み



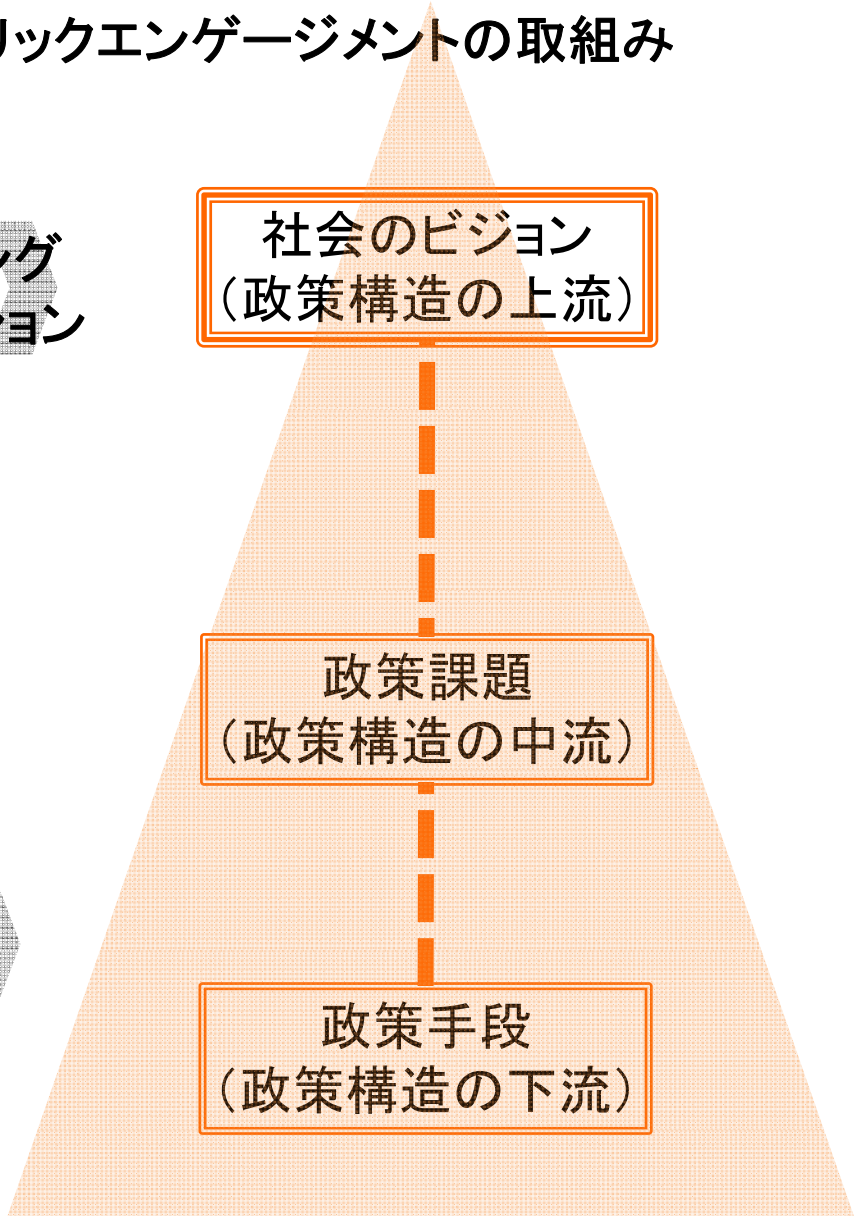
目指す社会像を描くための対話・熟議

・ブレインストーミング
・フューチャーセッション

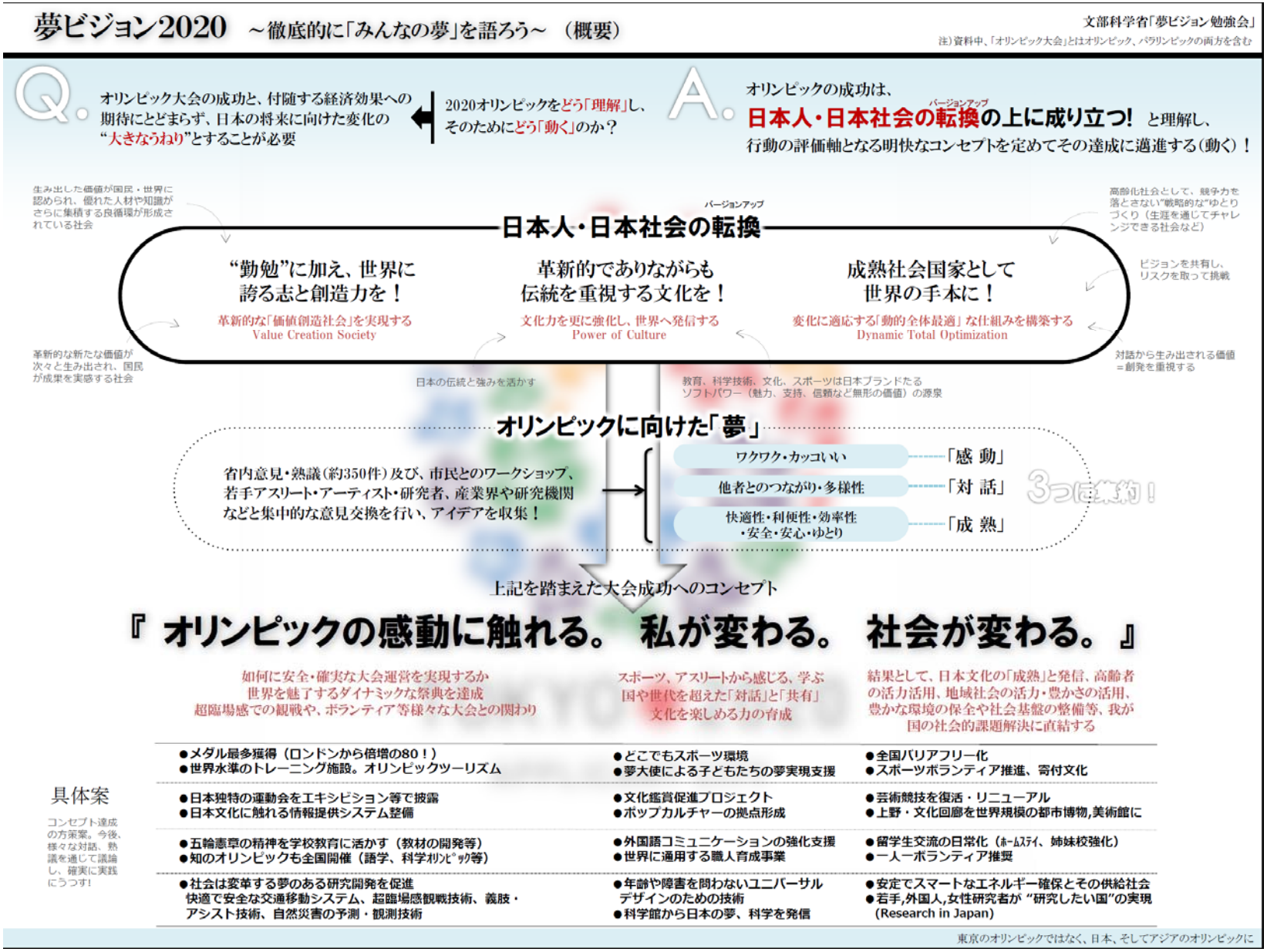


ステークホルダー間の調整のための対話・熟議

・合意形成
・利害関係調整



夢ビジョン2020


夢ビジョン2020 ～徹底的に「みんなの夢」を語ろう～ （概要）
文部科学省「夢ビジョン勉強会」
注）資料中、「オリンピック大会」とはオリンピック、パラリンピックの両方を含む
Q. オリンピック大会の成功と、付随する経済効果への期待にとどまらず、日本の将来に向けた変化の“大きなうねり”とすることが必要
2020オリンピックをどう「理解」し、そのためにどう「動く」のか？
A. オリンピックの成功は、
日本人・日本社会の転換（バージョンアップ）の上に成り立つ! と理解し、
行動の評価軸となる明快なコンセプトを定めてその達成に邁進する（動く）！
日本人・日本社会の転換（バージョンアップ）
“勤勉”に加え、世界に誇る志と創造力を！
革新的な「価値創造社会」を実現する Value Creation Society
革新的でありながらも伝統を重視する文化を！
文化力を更に強化し、世界へ発信する Power of Culture
成熟社会国家として世界の手本に！
変化に適応する「動的全体最適」な仕組みを構築する Dynamic Total Optimization
生み出した価値が国民・世界に認められ、優れた人材や知識がさらに集積する良循環が形成されている社会
革新的な新たな価値が次々と生み出され、国民が成果を実感する社会
高齢化社会として、競争力を落とさない“戦略的な”ゆとりづくり（生涯を通じてチャレンジできる社会など）
ビジョンを共有し、リスクを取って挑戦
対話から生み出される価値＝創発を重視する
日本の伝統と強みを活かす
教育、科学技術、文化、スポーツは日本ブランドたるソフトパワー（魅力、支持、信頼など無形の価値）の源泉
オリンピックに向けた「夢」
省内意見・熟議（約350件）及び、市民とのワークショップ、若手アスリート・アーティスト・研究者、産業界や研究機関などと集中的な意見交換を行い、アイデアを収集！
ワクワク・カッコいい ―「感 動」
他者とのつながり・多様性 ―「対 話」
快適性・利便性・効率性・安全・安心・ゆとり ―「成 熟」
3つに集約！
上記を踏まえた大会成功へのコンセプト
『 オリンピックの感動に触れる。 私が変わる。 社会が変わる。 』
如何に安全・確実な大会運営を実現するか
世界を魅了するダイナミックな祭典を達成
超臨場感での観戦や、ボランティア等様々な大会との関わり
スポーツ、アスリートから感じる、学ぶ
国や世代を超えた「対話」と「共有」
文化を楽しめる力の育成
結果として、日本文化の「成熟」と発信、高齢者の活力活用、地域社会の活力・豊かさの活用、豊かな環境の保全や社会基盤の整備等、我が国の社会的課題解決に直結する
具体案
コンセプト達成の方策案。今後、様々な対話、熟議を通じて議論し、確実に実践にうつす!
●メダル最多獲得（ロンドンから倍増の80！）
●世界水準のトレーニング施設。オリンピックツーリズム
●どこでもスポーツ環境
●夢大使による子どもたちの夢実現支援
●全国バリアフリー化
●スポーツボランティア推進、寄付文化
●日本独特の運動会をエキシビション等で披露
●日本文化に触れる情報提供システム整備
●文化鑑賞促進プロジェクト
●ポップカルチャーの拠点形成
●芸術競技を復活・リニューアル
●上野・文化回廊を世界規模の都市博物,美術館に
●五輪憲章の精神を学校教育に活かす（教材の開発等）
●知のオリンピックも全国開催（語学、科学ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ等）
●外国語コミュニケーションの強化支援
●世界に通用する職人育成事業
●留学生交流の日常化（ﾎｰﾑｽﾃｲ、姉妹校強化）
●一人一ボランティア推奨
●社会は変革する夢のある研究開発を促進
快適で安全な交通移動システム、超臨場感観戦技術、義肢・アシスト技術、自然災害の予測・観測技術
●年齢や障害を問わないユニバーサルデザインのための技術
●科学館から日本の夢、科学を発信
●安定でスマートなエネルギー確保とその供給社会
●若手,外国人,女性研究者が“研究したい国”の実現（Research in Japan）
東京のオリンピックではなく、日本、そしてアジアのオリンピックに

米原市健康増進計画
健康まいばら21（第2次）
市民の絆で築く心と体の健康なまち
平成２５年５月
米　原　市

310
対話型
バプコメ

対話型
バプコメ